

マンガを読むことの自己形成への影響

ー スポーツマンガを読むことを中心にー

前田汰斗

現在の日本において、マンガはこどもから大人まで、さまざまな人々の身近なところにあると言える。本稿の目的は、マンガを読むということが自己形成に与える影響を、アンケート調査を行い、その結果を基に一考することである。

調査は期間を 2024 年 7 月 17 日から 8 月 4 日までとして、Google フォームを介した方法でアンケート調査を行った。調査対象者は、大学 1 年生から 4 年生までの 42 名だった。調査の質問内容は、漫画に普段どのくらい身近にあるのかについて 10 問行い、その後、マンガをスポーツマンガに限定して質問を 5 問行った。

調査結果と考察は、調査対象者の大学 1 年生から 4 年生はスポーツマンガを読んで多分に影響を受けていることが読み取れた。そして、スポーツマンガを読むことから、読み手である調査対象者がキャラクターのように周りによって変わっていったり、努力したり、スポーツの難しさを学んだり、チームワークの大切さを学んだり、スポーツが趣味になるきっかけとなったり、部活動などへのモチベーションが高まったりと、考え方や行動に良い影響を与えていることが示された。スポーツマンガを読むことは、楽しさを知り、誤った知見を正し、スポーツに関する知識やスキルといった情報を得ることができ、そのスポーツに対する興味・関心を喚起することにおいても有効であると言える。これは、先行研究で示された学習マンガ教材の長所と一致する。このことから、スポーツマンガには学習マンガ教材の長所が内在していると推察される。スポーツマンガは、教材として作られたものではないが、学習マンガ教材として位置づけることが可能だと言える。